

横浜市青葉区の
杉山先生から投稿
いただきました



池守さんは
学園花の村第1
号会員、御前崎市
に脱サラして入
植、以来孜孜とし
て農業に励み、平
成17年、宮城さん
から学園花の村代表
の役割を引き継ぎ

ました。池守さんは畑で採れた野菜を届けるとき、「野菜満載」というエッセイを月2回の頻度で同封してこられました。いつも深い内容に感心させられますが今回その380号に池守さんの恩師からの投稿が紹介されました。池守さんの活動を温かく見守ってくださる心に沁みる内容です。お許しを得て「はなの村だより」に紹介させていただきます。

池守農園訪問記

去る10月30日、秋晴れの中を緑の茶畑を眺めながら御前崎市の池守さん宅へと車を走らせました。

池守幸一さんは50年前に川崎の古

市場小学校で私の主人が3、6年生まで4年間受け持った教え子のひとりです。平成9年6月に私たちは浜岡町合戸(現御前崎市合戸)に第1回目の訪問をしました。

奥さんの綾子さんと共に放棄された荒畑を開墾し、農薬を使わない有機農業にいつしようにけんめい取り組んでいる姿に感動しました。

その翌年再び伺った時は畑の数も増え。小さい鶏小屋もできていて、逞しく日焼けした顔は誰が見ても立派な農業者でした。

御前崎市下朝比奈にうつたと聞き、今回14年ぶり3度めの訪問をしました。

日当たりのいい石垣の上の瓦ぶきの家(築85年で土地と400坪の畑付き、さらに別棟もひとつ)に購入後手直しをしたようで、内部は水洗トイレをはじめ、住みやすくりホームされ、天竜杉の白木の床、壁、天井から木の香りが漂っていました。大黒柱や太い梁のがっしりした日本建築の家はまだまだびくともしないでしょう。

南に広がるのどかな田園風景は

一幅の絵画のようで、すばらしい住居を手に入れたものだと感じしました。畑や鶏小屋は元の合戸地区にあるので車で通勤の生活ですが、久しぶりに会った池守夫妻は全く変わりなく元気そのもので、びっくりでした。

今私たちは共に82才、「元気でいられるのは池守さんの野菜を15年にわたって食べていることも関係あるね」と話しながら帰途につきました。

ふるさと回帰支援センター

10周年記念パーティに参加

11月13日東京有楽町の東京交通会館に於いて「ふるさと回帰支援センター」設立10周年記念パーティがあり、がくえんはなの村から広報担当の伊藤公博が参加しました。当日等センター理事長見城美恵子氏や顧問の俳優菅原文太氏をはじめ著名な方々の講演があり、短い時間ではあったが、全国的な都市と農村を結ぶ運動が多く、地方自治体とセンターを通じて着実に発展していることを実感させられました。

宮城さんはセンターとタイアップしてニ地域居住型のクラインガルテンを自宅の古谷の地に立ち上げようと努力されましたが参加者が少なく、志半ばで断念、センターを紹介しての参加者募集は残念ながら日の目を見ませんでした。今回の事務局長高橋公氏の「リーマンショックと大震災を契機に都市の若者のふるさと回帰志向が顕著になった」という話を是非聞いてもらいたかったと思います。(伊藤公博)

(写真はセンターの協力を得て開催した南風園クラインガルテンの説明会場)

